

第二次ポンタ内閣の発足

2012年12月25日
杉内直敏

9日に行われた議会選挙を受けて新内閣が円滑に成立するかが注目されていたが、大方の心配は杞憂に終わり12月21日夜第二次ポンタ内閣が発足した。

バセスク大統領は17日、ヴィクトール・ポンタ氏(社会自由同盟共同議長、社会民主党議長、前首相)を次期首相候補に指名した。同氏は新議会に対して直ちに組閣名簿と政権綱領を提出。議会上下院合同会合は21日夕刻賛成402、反対120を以って新ポンタ内閣の発足に承認を与え、同日夜バセスク大統領のコトロチェニ宮において宣誓式が行われた。新内閣の閣僚名簿は下記のとおり。

議会選挙が社会自由同盟(USL)の大勝に終わったことから(588議席中395を獲得)同同盟が首相として支持してきているポンタ社会民主党議長の首班指名が当然と考えられる状況でありながら、これまでのバセスク大統領と社会自由同盟との関係、及び今次選挙戦を通じてのバセスク大統領の言動(ポンタ氏を次期首相には再任しないとの発言もあり)からしてすんなりと新内閣成立に至るかについては予断を許さない雰囲気支配していた。しかるにコトロチェニ宮での大統領と議会政党代表との協議は30分足らずで終わり(これまでの慣例と異なり招かれた全政党を一同に揃えて同時協議とした)、また、これまた慣例と異なり次期首相候補の発表は行われず「議会に代表される諸政党から提案された候補者はただ一人であったのでバセスク大統領はヴィクトール・ポンタ氏を次期首相候補に指名した」旨のコミュニケが発出されただけであり、その後も特段の問題にぶつかることなく新政府の成立に至るといふ拍子抜けのする展開となった。

こうした成り行き、特に選挙後のバセスク大統領の沈黙にいぶかしさを感じた者は少なくなかったが、その後明らかになったところによれば選挙後の12日にバセスク大統領とポンタ首相の間で国家機関としての大統領・首相間の協力関係に関する合意が署名されていた(アントネスク国民自由党議長及び、今回副首相に任命された社民党のドラグネア氏同席)。

プレスから同事実を指摘されたポンタ首相はEU指導者の心配を和らげるために憲法に規定されていることを書いただけで何ら劇的な合意を含むものでない等その重要性を否定した。同首相としては同合意文書は公表されないとの理解の下に署名した模様である一方でバセスク大統領は写真に撮られることを意識しつつ故意に首脳レベル欧州理事会会合の直後に同文書をバロツソ委員長及びシュルツ欧州評議会議長に手交したようである。同文書は、共通の原則・価値、共同の誓約、(大統領、首相夫々の)優位責任分野、協力分野及び協力の仕方、紛争解決メカニズムの各項目、を含む長文のもので同文書の署名によって第二次ポンタ内閣の成立が了解されたことは間違いない。両陣営とも国際社会の目を強く意識しており、先般のバセスク大統領弾劾国民投票をめぐる混乱がEU米国を憂慮させたことを教訓にしたと言える。実際、今次選挙結果判明後EU及び米国から社会自由同盟に対しては憲法・法の支配の遵守等を、また大統領に対してはポンタ首相の首班指名を斥けぬよう改めて強いメッセージが出されていた。

またハンガリー人民主同盟(UDMR)との関係についても選挙に先立つ9月に社会自由同盟との間で選挙後の政権協力について合意していたことが明らかになった。選挙後に社会民主党がUDMRの連立参加に向けて同同盟と接触したのはこれに基づくものであったが国民自由党、保守党

が反発して結実せず(UDMRがその後合意を守らなかったと非難しているがUSLだけで議会の絶対多数を達成したことから異分子を加えたくないとの考慮が強く出でたものと考えられる)UDMRは新内閣の信任投票においては反対に回って野党に留まることになった。ただし事案によっては協力していくとの姿勢を示している。

ポント新内閣の政策面では、付加価値税の19%への復帰、累進課税の導入などを指すとし、また、ポント首相はルーマニアの2013年予算は2%の経済成長、GDPの1.8-1.7%の財政赤字を見込んでいない旨述べたと報じられている。他方、2009年来IMF、EU等から借り入れた190億ユーロの返済期に入っており返済額は2013年から2016年の間に130億ユーロにのぼるとされている。その内94億ユーロはルーマニア国立銀行の対外準備の取り崩しで対応する由で国家予算からの支払額は2013年、2014年に各5億ユーロとしており、野心的な経済・財政政策を進める余裕は乏しいものと思われる。

第二次ポント内閣閣僚名簿(2012年12月21日発足)

首相 ヴィクトール・ポント Victor Viorel Ponta (社会民主党)
副首相兼行政・地域開発大臣 リヴィウ・ドラグネア Liviu Dragnea (社会民主党)
副首相兼公共財務大臣 ダニエル・キトイウ Daniel Chitoiu (国民自由党)
副首相 ガブリエル・オプレア Gabriel Oprea (ルーマニアの進歩のための国民同盟)
農業・地方開発大臣 ダニエル・コンスタンチン Daniel Constantin (保守党)
外務大臣 テイトゥス・コルラツェアン Titus Corlatean (社会民主党)
内務大臣 ラドゥ・ストロエ Radu Stroe (国民自由党)
国防大臣 ミルチャ・ドゥーシャ Mircea Dusa (社会民主党)
法務大臣 モナ・ピヴニチェル Mona Maria Pivniceru
環境・気候変動大臣 ロヴァナ・プルンプ Rovana Plumb (社会民主党)
経済大臣 ヴァルージャ・ヴォスガニアン Varujan Vosganian (国民自由党)
情報社会大臣 ダン・ニカ Dan Nica (社会民主党)
保健大臣 エウジェン・ニコラエスク Eugen Gheorghe Nicolaescu (国民自由党)
国民教育大臣 レムス・プリコピエ Remus Pricopie
労働・家族・社会保障・高齢者担当大臣 マリアナ・クンペアーヌ Mariana Campeanu (国民自由党)
欧州資金大臣 エウジェン・テオドロヴィッチ Eugen Orlando Teodorovici (社会民主党)
運輸大臣 レル・フェネキウ Relu Fenechiu (国民自由党)
文化・宗教大臣 ダニエル・バルブ Daniel Barbu (国民自由党)
スポーツ・青年大臣 ニコラエ・バニチオユ Nicolae Banicioiu (社会民主党)
予算担当大臣 リヴィウ・ヴォイネア Liviu Voinea
水・森林・水産担当大臣 ルチア・ヴァルガ Lucia Ana Varga (国民自由党)
インフラプロジェクト・外国投資担当大臣 ダン・ショヴァ Dan Coman Sova (社会民主党)
中小企業・ビジネス環境・観光担当大臣 マリア・グラピーニ Maria Grapini (保守党)
エネルギー担当大臣 コンスタンチン・ニツァ Constantin Nita (社会民主党)
高等教育・科学研究・技術開発担当大臣 ミフネア・コストイウ Mihnea Cosmin Costoiu

議会連絡担当大臣 ミハイ・ヴォイク Mihai Voicu (国民自由党)
在外ルーマニア人担当大臣 クリスチャン・ダヴィッド Cristian David
社会対話担当大臣 ドイナ・パナ Doina Adriana Pana (社会民主党)

(以上)